

『昭和的』のデザイン 1

『とーんだとーんだ』のデザイン 8

思い出のクリフォード 10

日々読書 10

続・ぼくの映画館は家から5分 11

メモランダム・本のデザイン 12

N'S COLUMN 13

カメラと歩く 14

MY KID'S DIARY 15

魚の環世界 16

40 ナリジナリ



昭和的

関川 夏央
絵 南仲坊

春陽堂書店

「昭和的センス」
から逃れられない、
時代遅れの著者の
ささやかな抵抗。
辛口にして
味わい深い
珠玉のエッセイ集

ISBN 978-4-394-98016-2
C0095 ¥2200E
定価:本体2200円+税

9784394980162

春陽堂書店

1920095022000

山田風太郎の長寿祝い
ヤクザ映画と三島由紀夫
昭和的汽車旅・電車旅
「義理人情」という思想
「天国と地獄」の撮影
誰でも老いる、誰でもボケる
「倍速」で見てもいいですか?
ヤマザキマリと隣席の乗客
「いとしのエリー」を歌う彼
山田風太郎と黒澤明
「突然炎の『とく』」と
洋画の邦題
「秋刀魚の味」に
映されたプロ野球
渥美風天の俳句

（目次より）

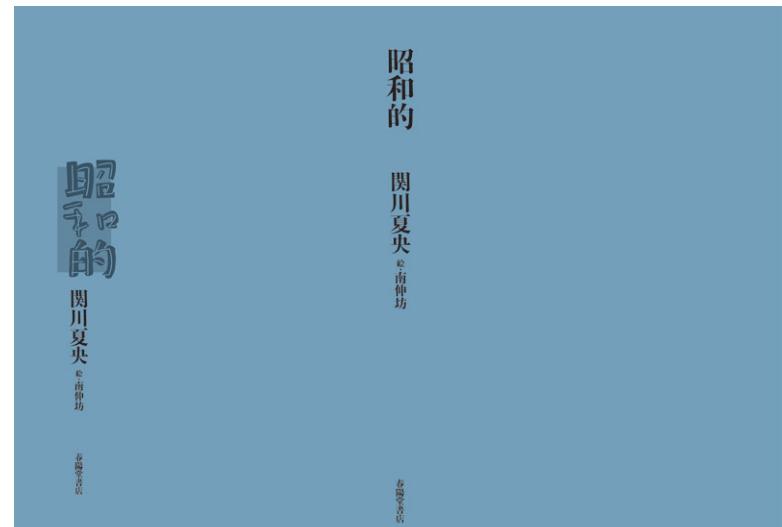
定価2420円(本体2200円+税)

3 文字とも違うデザインにしたいというご依頼でした。形は違っても共有するにかが感じられる文字にしようと考えて、たてよこの比率や重心、太さなどを3文字でおおよそ揃えています。仕上げとして骨格のような細い線をかさねて、異なるスタイルの印象が強く出すぎないようにしました。それぞれ形は違っても、おたがいに干渉せず、静かに響きあっているような文字と感じてもらえたならうれしいです。ご依頼くださった春陽堂書店の清水真穂実さん、ブックデザイナーの赤波江春奈さん、日下潤一さん、そして著者の関川夏央さんに心より感謝申し上げます。

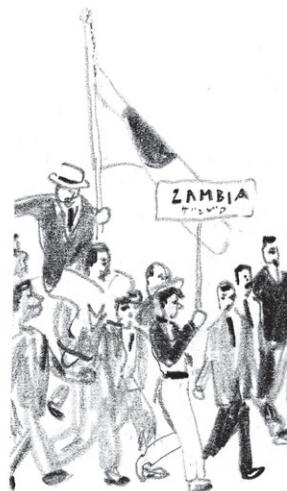
タイトルレタリング ヨコカク



春陽堂書店



春陽堂書店



一斉入

壁もない。主義、思想の別もない。みんなが、肩を組み、「ちようくに笑い、同じく手を振りつづけて……」

実は閉会式の劇的展開には、意外な原因があつた。閉会式と同じくアルファベット順に各国が入場し、進行する約束だつたのだが、開始を待つ間にイスラエルとイラクの選手団間にいさかしが生じた。それが全体に波及する気配を感じた係員が、順番を無視した「一斉入場」に緊急説導したのである。

マラソンのアーベ、柔道のヘーシンク、女子体操のチャスラフスカ、世界の広さ、強さ美しさを日本人に実感させ、そして偶然とはいえ、閉会式では世界の希望の記憶を日本人の心に刻んだ一九六四年の第一次東京五輪であつた。それに引き換へ第二次東京五輪は、三十七歳で退社してフリーとなつた本田靖春は、糖尿病をはじめ多病で苦しむ晩年を送り、二〇〇四年、七十一歳で亡くなつた。病氣のうち、肝臓がんは「売血」取材の際に感染したC型肝炎から発症したのである。

上一齣入場

〈有夏

上右 一章扉／上左 目次

下右 二章扉／下左 大瀧詠一の『楽しい夜更し』

「才」 リジナリ」の連載の時から、関川さんとのタッグはたのしみでした。 「昭和」のイメージというか「白黒写真」は、想像以上に自分自身の「記憶像」だったので、昔のニュース写真や、新聞や雑誌写真を、模写することが、すごくたのしみだったので。単行本にするにあたって、絵をタテ位置用に描き直したり、連載時に気に入ってなかった絵を描き直したり、もっぱら自己満足のために、〆切を踏み倒して、勝手をしました。すいません、おじいさんは自分勝手ですね、日下さん赤波江さんありがとうございます。

関川さんから、ねぎらいの言葉をいただいた上に「絵・南伸坊」と並記して下さったり、ギャラを印税制にして下さったりとありがとうございます。関川さんありがとう、持つべきものは友達だね。うれしいです。

南伸坊



		「人國」と「眞」の幽影		「い」と「のうり」の歌と後	
		世界	日本	由風	久松
「歌の手」	「たかの」	九七一年代	八二	七四	六八
タニシ歌子	西沢翠風の最終年				
進でるよ、進で出るよ					
信達で見てもいいですか?					
ヤギヤギりん、薩摩の香客					
101	95	89	81	74	68
		「い」と「のうり」の歌と後		「い」と「のうり」の歌と後	
		由風久松と歌説明	131	久松と歌説明	139
「愛おして」と「女子修身隊					
突然のこと」と「佐藤の出題					
元ですね、タハラ君					
なんでも、なぜかねえんで		132	139		
揃ひの荷と紫色のジンケイ					
144	138			107	125

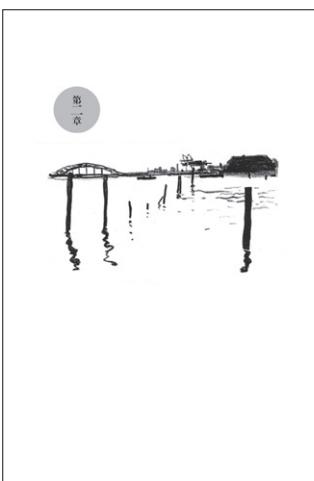
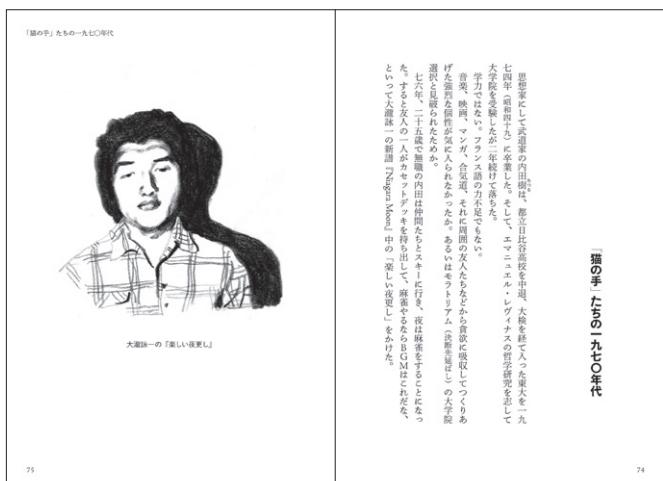
第1章	
山田山人 大河内長重親い	10
老いた子の心事	14
ヤクニ映すと山田山人	18
「平生は居て良太」回想	22
「またの『良太』」	26
昭和の水木しげる	30
香川県民の「良太」	33
「良太の心」	37
三島由紀夫、ガリラヤ風文に	40
三島由紀夫、三島の脚本	43
水谷八重家の「平生手記」	46
時局名士に「平生」	48
義理人情、とうとう想	51
説教あると西郷朝	57

イ ラストレーターの南伸坊と知りあって50年、日下潤一によるBGXのデザインに驚いて以来40幾年かが過ぎた。

この間、何度も私の本の装丁してくれた南伸坊とは、いつか共著の本をつくりたいと念じつづけていたが、このたび『昭和的』という本で実現した。ここに掲げられたイラストレーション群は、南伸坊の「回想の次元」の代表作と思う。また、本のデザインは脊髄反射のごとく日下潤一と、過剰な批評性が加齢しても抜けない彼が全幅の信頼を置く赤波江春奈に頼み、引き受けもらった。幸運であった。

一度依頼てしまえば、どちらも私が口をはさむ隙はない。すべてまかせっきりで、いつものように完成品を見て感動することになった。

かつて、自分の老いを信じなかつた私たちも老いた。時代は移ろつた。だが、友の才能と技量を信じ切るやり方は旧に変わらない。それが古びない丁寧な仕事、すなわち「昭和的」な仕事を生み出すのだと思う。



『とーんだとんだ』のデザイン

中川ひろたか なかがわひろたか
1954年埼玉県生まれ。シンガーソングライター。
1995年「さまのおじい」(絵・村上成 著・ひね)で繪本賞デビュー。「ないじ」(絵・長谷川 義史)で
日本大賞大賞賞。ほかに「ピーマン村の木本たち」
シリーズ(絵・村上成 著・ひね)、「二にきりう」(絵・
村上成 PHOTOFOLIO)、おおかみきみいなんい?」
(絵・新井清二 Gakken)などがある。歌に「世界中のこ
どもたちが」「にじ」となど多岐。2023年、全て中川の
楽曲によるミュージカル「DADDY」に出演。

長谷川義史 はせがわよしし
1961年大阪府生まれ。絵本作家。「おじいちゃんのお
じいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」(絵出版)
で絵本作家デビュー。「おまさかのかいさん」(絵
出版社)で第3回絵本出版文化賞本賞、「ぼくが
ラーニングたててるとき」(絵出版社)で第11回日本絵本
賞、第57回小字館児童出版文化賞、「あめたま」(ブロ
ンズ社)で第24回日本絵本賞翻訳絵本賞、第2回やな
せたなし文化賞。ほかに「いいからいいから」(絵本
社)、「へいわってすてきだね」(ブーンズ新田)、「たしゃ
れ日本一周」(絵出版社)などがある。

Gakkenの伝承遊びの絵本



とーんだ とんだ
なーにが とんだ?

ちょうどよ カラス、
ふうせんが とんでもくよ

あれれ?
ぶたや うしまでも
とんでもった……!?

〈下の図〉
右2点 本文見開き
左上 表1・帶
下左 奥付



子 どもの頃「だるさんがころんだ」や
「かごめかごめ」で遊んだ方も多いと思
う。今の子はもう遊ばないんじゃないかと思
われるかもしれないが、伝承遊びには根源
的な喜びがあるのか、変わらず人気である。
そんな伝承遊びを絵本にしたい。元保育士で
シンガーソングライターの中川ひろたかさん
に相談すると、「とーんだとんだ」はどう?
と、ナンセンスな笑いが入ったテキストをく
ださった。絵は長谷川義史さん。長谷川さん
の描く子どもが精一杯泣いて笑って遊んでい
る感じがたまらなく好きで、ぜひとお願い
した。そして数年後、のほほんとして精一杯
生きている男の子がやってきた。日下さんと
赤波江さんが、長谷川さんの絵を抜群のバラン
ス感覚で軽やかに仕上げてくださった。驚いたこと
に日下さんと長谷川さんは旧知の仲
だという。なんとも不思議なご縁が繋がった
のも嬉しい。



絵本『とーんだとんだ』のこと

Gakken 絵本編集者 長峯宣子

見返し



ぼくの映画館は家から5分 36

4 月頭の南伸坊さんとの二人展が終わって、次の8月末の個展までに4ヶ月しかない。絵の制作のためにこの連載もお休みさせてもらつたが、その間忙しかつたのか「オリジナリ」自体が出なかつた。

9月半ば、実に半年ぶりの下高井戸シネマに行く。禁断症状はなかつた。ぼくの人生に映画は必要ないのか? しかし映画は誰かの人生を必要としている。ジャ・ジャンクーの新作『新世紀ロマンティクス』は二人の男女の人生が丸ごと入っている。

監督は2001年から20年以上かけてこの作品を作つた。『青の稻妻』、『長江哀歌』『帰れない二人』など、これまでの自作本編と本編以外の映像、ドキュメンタリー映像、新たな撮り下ろしを編集でつないだ。貧しい時代の中国の映像は今見ると途方もなく絵力が強い。いつしょに観に行つた友達二人は、どちらもジャ・ジャンクー好きで、あの映画のあのシーンがあつたと語り合つていた。同じ俳優を使つて続けるから出来ることである。若かつた主演女優のチャオ・タオが映画の中で実際におばさんになる。土が剥き出しだつた国はいびつに大繁榮しコロナ禍にある。ほとんど台詞を喋らないチャオ・タオだが、本物のシワが十分に語つている。

同じ頃、終盤を迎えた朝ドラ「あんぱん」では二十代の俳優たちが老年を演じていた。まるで高校生演劇だ。

いの・たかゆき 1971年、三重県生まれ。イラストレーター。第44回講談社出版文化賞、第53回高橋五山賞。著書に『となりの一休さん』、『いい絵だな』(南伸坊さんとの共著)がある。最新刊は『増補改定版 画家の肖像』。

森英二郎 思い出のクリフォード②③

40 年近く前、ぼくは東京の西小山の古い木造のアパートにひとりで住んでいた。東京でやっていけるかどうか、とりあえず上京したのである。部屋にはテレビもステレオもなかったので友人が小さなラジカセを貸してくれた。ある日渋谷のWAVEでジョニー・ウィンターのカセットテープを買いました。なんでジョニー・ウィンターなのか、多分元気が出るからやと思います。別の日に有楽町駅の構内のワゴンで安いテープを売っていたのでホール&オーツのアポロ・シアター・ライブを買った。ずっとこの2本のテープを聴いていた。そのうちホール&オーツのテープはぶよーんと伸びて聴けなくなっていました。半年が経ち、僕の心もぶよーんと伸びて、大阪に帰ることになりました。今回その40年前のジョニー・ウィンターのテープを出してきてデッキに入れたら、なんと! ちゃんと音が鳴りました。

もり・えいじろう 1948年、京都府生まれ。
関西のタウン情報誌「プレイガイドジャーナル」の表紙、
野外コンサート「春一番」ポスター、
『荷風と東京「断腸亭日乗」私註』(川本三郎著)、
絵本『おとうさんのうまれたうみべのまちへ』など。



ジョニー・ウィンター

Johnny Winter
1944-2014

伊野孝行

日日読書 大西良貴

37

London Books
616-8366 京都市右京区嵯峨天龍寺今堀町22

川上弘美は二十代の頃よく読んだ。『センセイの靴』がフェイバリットだが短編も好きだ。本書は、人と、人ならざる生き物との交情を描いた短編集。久々に読み返したが、世界観、空気感がハマっていて、内田百閒や藤枝静男を彷彿させるところもあり、いかにも川上ワールドだなあと。今読んでも面白いが、当時のめり込む感じではない。読書にもタイミングがあることを思われる。

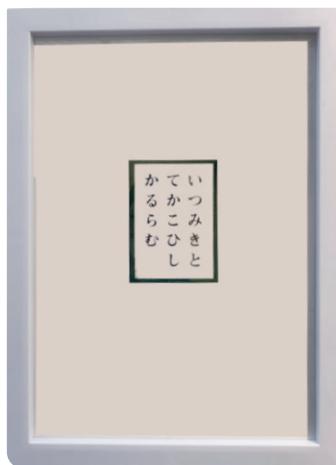
当時、川上弘美の諸作を夢中で読んだのは、文学への憧れが強かったからだろう。若さとは、自分の自然性への逆らいだと思う。自分の性向、あるがままの自分を否定し、未だ見ぬ大きな価値を求める。向上心とも言えるし、背伸びとも言える。マンガ少年だった自分が、文学という未だよく知らないモノに憧憬を抱き、がむしゃらに読む。十代、二十代の頃の読書にはそんな力みがあった。

ふと、川上弘美が、今の自分と同じ五十歳頃に書いた小説を読んでみたくなった。



川上弘美『龍宮』
文春文庫／2005年

いつみきと
かひし
かるらむ



二回り違いのイラストレーター二人②

関川夏央

南伸坊 × 伊野孝行
ぼくらの好きな画家

2025年3月31日(月)～4月12日(土)
東京青山・スペースユイ

「みかの原」は瓶原と書き、木津川がひらいだ平野。「いづみ川」は木津川のこと、「わきて流るる」は「湧きて」と「分きて」を掛けた、と解説書にあった。南さんのユーモアと教養にはいつも驚かされる。

一九六〇年代には肩まで届く長髪だった南伸坊は、進学でも就職でも、試験にすべて失敗する人だった。「試験技術」に価値を置いていかなかったのだろう。芸大受験準備のためにビーナスを石膏アッサンで描くと、ビーナスのエラが張っていたという。

都立工芸高校を出て浪人のち、無試験の「美学校」で木村恒久、赤瀬川原平に学んだ。その後、マンガ雑誌「ガロ」を刊行する青林堂に、やはり無試験で入って、仕事熱心な編集長になった。その頃はもう坊主刈りなつていた。

伊野孝行君も、大学を出てから無試験のセツ・モードセミナーで学んだ。もつとも一年目は志望者が多すぎて抽選になり、「浪人」した。主宰者・長沢節に「絵とはデッサンから解放だ」と教えられ、目からウロコを何枚も落とした。

大学四年時から四十一歳まで、神保町の喫茶店のアルバイトで生活を支えた伊野君は、二〇一四年、表参道のギャラリーで開いた個展の案内を、面識のない大先輩・南さんに恐れ入る形で持ってきた。

「みかの原」は瓶原と書き、木津川がひらいだ平野。「いづみ川」は木津川のこと、「わきて流るる」は「湧きて」と「分きて」を掛けた、と解説書にあった。南さんのユーモアと教養にはいつも驚かされる。

「いつみきと／てかひし／かるらむ」
「いづみ」に関係がありそうだが、わからぬい。

「いづみ」暗号?
アナグラム?

あれはね百人一首、知ってるでしょ? と
デザイナーの日下潤一さんにいわれたが、私は知らなかつた。その二十七番、紫式部の曾祖父、中納言兼輔の歌だそうだ。

上の句「みかの原わきて流るるいづみ川」

に、下の句「いつ見きとてか恋しかるらむ」



る恐る送った。

会場を訪れた南さんは、伊野君と話しながら長い時間作品を見てくれたばかりか、伊野君を飲みに誘った。絵は驚きとユーモア、要するに「おもしろさ」が命だと考える南さんは伊野君の絵が好きになつた。そして、打けば響くような伊野くんとの会話をたのしんだのである。

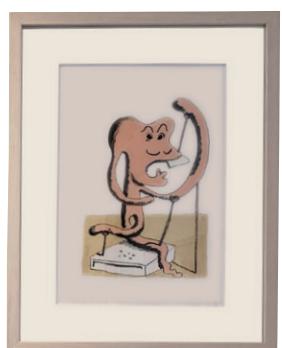
南さんは伊野君の画集『画家の肖像』に、「おもしろいなあ!」とい

う書き出しの「解説」を寄せ、この画集は「パロディ」ではない、「絵による絵画論」という「あたらしいジャンル」と書いた。

「デッサンや遠近法が狂つてるとか、それはつまりいわれるけど」「(もともと遠近法から自由な)日本人が見たら、最初からいい絵だつて思いますよ」

伊野君がつづけた。

「(ルソーの作品のヘタウマぶりに感動したピカソは)せっかく身についた超一流の技術を『こんなんじゃだめだ』って」「ボイッと手放したところがエライんですね」



て、人を明るく笑わせながら本質を衝くイラストを描かせた。「いづみ」の下で眠る彼は、大いに誇るべきだろう。

1949年、新潟県生まれ。
作家。代表作に『海峡を越えたホームラン』
(双葉社 第7回講談社ノンフィクション賞)『坊ちゃんの時代』(双葉社・谷口ジローと共作・第2回手塚治虫文化賞)最新刊は本誌連載『昭和残照』が元になった『昭和的』(春陽堂書店)。

南さんは伊野君の肖像に、「おもしろいなあ!」といふ書き出しの「解説」を寄せ、この画集は「パロディ」ではない、「絵による絵画論」という「あたらしいジャンル」と書いた。

デュシャンは、百年後、日本の先端的なイラストレーター二人を刺激し

アーノルド・ウエスカーニ

木村光二郎

晶文選書



同書でご本人が言う
ように、『ウエスカーニ
部作』の表紙はスミー色の活版刷り
で、新聞のように写真の網目が粗い。

「平野」甲賀 装幀の本で、『ウェ
スカーニ部作』を晶文社は
「別のデザイナーに頼むはずだつた」が、
平野さんとその場にいた「デザイン先行型
のデザイナーが激しい議論」になり、結局、
自分がやることになつたと書かれていたが、
そのデザイナーというものは私の友人が師事
した平野さんでした。
「新聞の紙面のような上りにしたい」と、



写真はオリジナルのプリントを一旦製版し
て目伸ししたのではなく、多分もとが活版
刷り写真の複写で、それを拡大して網点が
粗れている。これが「スピード感」という
無頓着さの演出だ。写真是絶妙な横長のト
リミングで、下部（机の部分）を少し袖の
折返しのほうにまわしている。その雁垂れ
の袖の内側には、より網目の粗れ気味のウ
エスカーニと演出家のジョン・デクスターの
写真が、三方断ち落として入れてある。

表紙のタイトルスペースと写真是半々に
見えるが、写真の方が少し広い。同じだと
白地が膨張して広く見える。裏のウエスカ
ーニの顔も、写真と白地の分量は同じく写真
のほうが広い。



メモランダム・本のデザイン 31
ウエスカーニ部作 その3
日下潤一

表紙のタイトルの文字は活字清刷りを詰
め貼りして版に起こしてある。the wesker
trilogyの欧文はよく詰めている割に語間が
ひろいのは長さと文字の大きさのためか。
訳者の木村光一の光と一の間の極端な詰め。
タイトル文字と著者名の二行の処理、メ
インのタイトル「ウエスカーニ」の「ウ」よ
り二行目の「アーノルド」の「ア」が少し
下げてあり、地の晶文選書のマークをタイ
トル一行目の最後の文字「Y」よりやや上
に調整している。いずれも小さい方の二行
目を一行目と天地ぴったりに揃えてしまふ
と、錯視で小さい方が飛び出して見えるか
ら。(つづく)

N'S COLUMN 42

西岡琢也 「ナルホイヤ」の漂白登山

日覚まし

時計の電池を入れ替え
てたら、目の前の置き

時計の秒針が止まつた。電池のストライキか、
ネットバンキングのワンタイムパスカードも
三行分、次々電池切れになり、銀行の再発行
手続きが面倒で往生した。
次は固定電話が突然繋がらなくなつた。受
話器を上げてもウンともスンとも言わない。
ルーターを換えてダメで、NTTを呼んで
半日がかりで原因が分かり、やつと繋がつた。
いくつもの、幾重にも張り巡らされたシ
テムの中にいると実感した。それが一旦綻ぶ
と、修復に恐ろしく時間と手間がかかる。

生の根幹である衣食住にかかわるほぼす

べてに貢幣やテクノロジーが介在し、本人
が関与できない仕組みになつていて。(略)

おまけに仕掛けが複雑すぎて故障したら直
すこともできず、また買うしかない。生き
るために必要なあらゆるものを持つ自分の手で
生み出せず、手直しすらできないことによ
つて、私と命と生活は銀河系にもひとしい

距離によって隔てられてくる。

『地図なき山 日高山脈49日漂泊行』(新潮
社)で角幡唯介は書く。「裸の大地」シリーズ
で北極を漂白した角幡は、その合間に北海
道日高山脈で四度の地図なし登山(三度自から
同行者あり)を敢行した、その記録である。

登山のテーマは北極行と同じ、「脱システム
ズ」で角幡唯介は書く。「裸の大地」シリーズ
で北極を漂白した角幡は、その合間に北海
道日高山脈で四度の地図なし登山(三度自から
同行者あり)を敢行した、その記録である。

山では生と死が等価値で循環しており、
「アメマスの死は私の生だが、私の死はほか
の動物の生である。」と続ける。角幡の著作
は詳細な冒険の記録だが、過酷な自然の中で
の深い思索も必ず叙述する。

「文明やシステムどころか未来予期優先の思
考から隔絶することは究極の自由の経験」だ
が、「その自由は耐えがたいほど重苦しい」
と綴る。そして原始の探検家の旅に終わりは
なく、「探検は生活と密着した永久に続く無
限の行為」と考える。それは地図やシステム
を最大限に活用し、ひたすら効率的に地図で
定めた目標地点に向かう猪突猛進形の今の探
検とは真逆ものだったのだろう。

角幡は北極の民イヌイットの言葉、「ナル
ホイヤ」(「わからない」「何ともいえない」)
に行き着く。狩猟民の彼らは未来予期を避け、
足跡や獣道や糞に柔軟に対応して動物の世界
に組み込まれていかないと獲物が獲れないと
よく知っている。

かくありたいと願う角幡も五十歳目前。体
力と経験値から四十三歳が人間の最盛期と言
う彼の次なる冒険は……まだまだ山をおりる

釣りの成功は山からの祝福である。(略)



「万博、来年もやるの?」と、ふいに聞かれたのは、10月の3連休の最終日。夕方。テレビには、大阪万博最終日の様子が映し出されていた。

「え! もしかして、万博行ったかった?」と質問に質問で返すと、わたしの質問には答えず、「おなじ質問をくり返す。」「万博、来年もやる?」

「ううん、来年はやらないよ。次に日本でやるとしたら……20年後とか30年後くらいかな? そうか、万博、行きたかったんだね?」目を逸らしたまま、強い意志を持つて頷く。「だって、クラスのみんな行つてたし。(たぶんみんなじやないと思う) ばくもミヤクミヤクのグッズほしかった。(もしかして、グッズがほしかっただけ?)」

わたしは開催が決まった時から、莫大なお金がかかる万博が、今の日本で開催されることにずっと反対だった。

息子の前で「万博なんて行かない」と口に出しはしなかつたけれど、息子は母親が放つ「万博とか、無いわ~」という空気を敏感に嗅ぎとつて、「万博行つてみたい」の一言を、じつと胸にしまっていたのだろう。万博最終日の夕方になるまで。

実際に行くか行かないかは別として、「万博、行ってみたい?」くらい聞けばよかつたのだ。彼の意見を聞くことを、わたしはサボつてしまつた。

14

MY KID'S DIARY

万博とか救急車とか

文と絵 赤波江春奈

小学2年生の息子には、初めて知る国名前や、初めて触れる言語がたくさんあつただろう。あの巨大な輪つかの内側には、子どもの好奇心を釣付けにして放さないエネルギーが溢れかえつていたかもしれない。

帰り道で、たのしかつたたのしかつたと連呼して、ミヤクミヤクを抱く我が子が目に浮かぶ。

急にちくちくした切ない気持ちに襲われて連れていってあげてもよかつたのかな」と、後悔と反省の波がじんわり胸を濡らしはじめた。だけど、やっぱりわたしは「万博とか、無いわ~」派なのだった。

万博が開かれていたこの半年間、息子は毎日笑って、ときどき泣いた。

春の終わり、初めての剣道の試合。一回戦であつという間に負けて静かに泣いた。夏の始めに、何度も挫折して、あきらめかけていた



残 暑厳しい午後6時半、週刊誌に掲載された差別的なコラムに抗議する人々が矢来町の歩道に並んでいた。出版社の窓の中では、多くの社員が黙々と自分の仕事をしている。

会社は責任を明確にせず、この問題が忘れ去られるのを待っているのだろうか。

筒口直弘 カメラと歩く 9
2025年9月1日

つつぐち・なおひろ
1971年生まれ。「芸術新潮」カメラマン。
版元に勤めていた自分にとってこの夏は
しんどい時間だった。

Life with Chairs 椅子と人生 part.2

Life with Chairs 椅子と人生というタイトルは、私が北海道・東川町を訪れたときに町の交流施設「せんとびゅあ」で開かれていた織田コレクションの展示会名に由来します。

織田憲嗣先生に「展示に並べる椅子などはご自分で選ばれるのですか?」とうかがうと、「これまで育ててきた若い人たちに任せています。展示会のテーマからすべて、東川町の若手スタッフたちが考えてくれています」とのこと。ご自分の手を離れた織田コレクションを広く公開する場所としてデザインミュージアムをつくる計画が進行中で、彼らの活躍の場はこれから広がってゆくようです。

最近、スウェーデンでは公共テレビ局SVTによる新番組「Nordisk design - en kärlekshistoria」の放送が始まりました。1920年代から現在にいたる北欧モダンデザインについての全5回番組で、kärlekshistoriaはスウェーデン語でラブストーリーを指します。各回にひとりずつ登場する世界的なコレクターが語る興味深いエピソードは、まさにそれぞの「愛の物語」にほかなりません。

第2回には椅子コレクターとして織田先生が紹介され、ご自宅の様子も見ることができます。予告で「椅子は腰掛けるものですけれども、今では私の人生の上に椅子が腰掛けています」とおっしゃった言葉に、それはまさに椅子に(腰掛けながら) 賞けた人生 Life with Chairs だと、どきりとしました。そしてこのタイトルは、東川町の若手スタッフたちから先生への最大の賛辞だったと改めて思いました。デザインミュージアムの開館が今から待ち遠しいです。

前号をお届けに不動前・フラヌール書店へ。本を眺めるのがたのしい書店。前から読みたかった漫画『隙間』を買った。作者の高妍さんは、1996年台湾生まれ。1巻で、台湾の二二八事件のことが描かれる。主人公の楊洋は自分の無知を恥じるが、それを読むわたしも自分の無知を知る。台湾や沖縄のこと、闘ってきた人々や歴史のことを、知らなすぎると分かる。今は2巻目を読んでいる途中。一気に読んでしまわず、時間をかけて全4巻を読んでいくつもり。「オリジナリ」は今号で40号に。今年は発行が滞りがちだったが、いつも隅々まで読んでくださる方々、感想を伝えてくださる方々、ありがとうございます。(赤波江)

2025年10月15日発行 〈ゴドデザイン〉ヨコカク 〈編集・デザイン〉赤波江春奈+日下潤一 〈印刷・製本〉グラフィック
(発行)ビーグラフィックス ©B GRAPHIX 2025, Printed in Japan 【無断転載禁止】お問い合わせ:akabae@bgx.jp

◆Web: bgraphix.com ◆Twitter & Instagram: @bgx_book_design ◆日下潤一のブログ: www.bgx.jp/blog/
「オリジナリ」はBGXが毎月発行するフリーーペーパー/100部発行

◆ロンドンブックス(京都・嵐山) ウンベルト(京都・夷川) フラヌール書店(東京・不動前)に10部ずつ、
古瀬戸珈琲店(東京・神保町)に5部、置いています



フロアスタンド (Kaare Klint) とロッキングチェア J16
(Hans J. Wegner) せんとびゅあにて

魚の環世界 37

魚住寧子

タイトルレタリング……ヨコカク(岡澤慶秀)

ウンベルト Umwelt Textiles & Objects
604-0962 京都市中京区夷川通御幸町
西入達磨町588-1

うおづみ・やすこ 1977年、兵庫県姫路市生まれ。
Umwelt Textiles & Objects店主。学生時代にテキスタイルを学ぶため、デンマークへ留学。帰国後、古美術店に勤めたのち2012年、京都・夷川通にUmweltを開く。

ある漫画家が、ネットの画像から無断で絵を描いて問題になったとか、無知で迂闊。以前、雑誌の表紙でベテランのイラストレーターに、家のまわりで気に入った風景をテーマに頼んだら、近所ではなくとても手軽に描けないような高さから見た絵を描いてきた。ネットで検索するとすぐに元の写真が見つかった。自分で写真を撮ればいいのに、安直なことをして大丈夫かなと思ったことがある。昔、大好きなプッシュピニンスタジオのイラストレーターのジェイムズ・マクマラン (James McMullan) の作品集で、スタジオでモデルを使って素材になる写真を撮影、それをもとに絵に描くのを知り感心した。91歳でご健在。(日下)



E.Mori

今月のあとがき

Originally October 2025

